

プレスリリース

平成14年6月21日  
生産局畜産部  
飼料課・衛生課

### 第6次輸入肉骨粉等の海外調査報告について

第6次輸入肉骨粉等の海外調査(平成14年6月7日付けプレスリリース参照)の結果は、以下のとおり。

- 1 調査日程:平成14年6月8日(土)～15日(土)
- 2 調査場所:オランダ国家畜衛生当局、動物性油脂製造工場(2工場)
- 3 調査職員:生産局畜産部衛生課1名及び肥飼料検査所1名(合計2名)
- 4 調査結果の概要  
:別添のとおり

#### 問い合わせ先

- ・生産局畜産部衛生課 担当者:伊藤  
電話03-3502-8111 内線 4046
- ・生産局畜産部飼料課 担当者:富田  
電話03-3502-8111 内線 3991

(別添)

## 第2次オランダ調査結果概要

### 1 オランダ政府家畜衛生当局での調査結果

#### (1)オランダ国内のBSE感染牛の感染原因究明の状況について

オランダ農業省は、BSEの原因究明のため、家畜用飼料とBSE発生との疫学的関連性について鋭意調査を行っているものの、感染源の特定には至っていない。

オランダ農業省は、代用乳がBSEの感染源になる可能性については否定的で、飼料製造過程における肉骨粉の交差汚染が有力と考えており、EU獣医委員会でも、BSEの重要な感染源は肉骨粉にあるとしている。

#### (2)オランダ国内のBSEの発生原因として、代用乳に含まれる動物性油脂のリスク評価について

オランダ農業省は、オランダのBSE感染牛の一部にも、日本に輸出された動物性油脂を製造した会社の油脂を含む代用乳が給与されていたが、当該代用乳の製造会社のオランダ国内における市場シェアが50%以上であり、他に何百万頭の子牛にも当該代用乳が与えられていたことを踏まえれば、当該代用乳とBSEの発生とは疫学的に関連性は認められないと主張。

### 2 動物性油脂製造工場(2工場)での調査結果

#### (1)日本向け動物性油脂製造工場の原料について

第1次調査ではA工場の動物性油脂は豚由来との回答であったが、すべて牛由来であることを確認した。

#### (2)動物性油脂の原料について

① A工場には食用油脂製造ラインと飼料用油脂製造ラインがあり、日本向け動物性油脂は飼料用油脂製造ラインで製造されていた。

② B工場には飼料用油脂製造ラインと飼料用骨油製造ラインがあり、日本向け動物性油脂は飼料用油脂製造ラインで製造されていた。

③ これら動物性油脂の原料は、健康な動物由来であるが、品質等から食用に供することができないとされた材料であった。具体的には牛の脂身(背脂肪や腹腔内脂肪)、肺、乳房が原料に使用されていたとの説明であった。

④ 脳、脊髄、眼等は顧客ニーズにより、自主的に原料から除去していたとの説明であった。

⑤ 両工場とも、飼料用動物性油脂を製造する工場として、農業省より認可されていた。

#### (3)交差汚染の可能性について

両工場ともに油脂製造ラインは、原料の搬入から製品の貯蔵までパイプで連結され、他の製造ラインと分離されていたことから、生産された動物性油脂に他の動物性タンパク質等が混入する可能性はほとんど考えられない。

### 3 総括

今回の調査において、日本に輸出された動物性油脂の製造工場において、BSEの感染源となり得る牛のたん白質が混入したとの確証を得るには至らなかった。

今後、持ち帰った資料を分析するとともに、サーベイランスの強化を図るなどさらに徹底した調査を継続する。